

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	㊸【身を守り、生き抜くための技能】 危険を予測（回避）し、災害や事故に直面した際に自他の体を守り、被害を最小限に止め、非常時に生き抜く技能を身につける。	総合的な学習の時間
<p>【題材】 防災週間</p> <p>【対象】 小学校1年生から中学校3年生まで9学年の児童生徒</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p>10月最終週を防災週間と位置づけ、災害のメカニズムや防災の知識、実践力を集中的な取り組みのなかで身につけさせることを目的として行うこととした。</p> <p>1 ねらい</p> <p>(1) 防災週間を設定し、児童生徒の防災意識の向上を図るとともに、防災に関する知識を身につけ、自他の命を守るための実践力を高める。</p> <p>(2) 防災週間を機に学校及び教職員の防災体制をチェックし、体制の強化、改善を図る。</p> <p>2 内容</p> <p>(1) スクールカウンセラーによるこころの授業 防災週間に向けて、心構えやストレスマネジメントについての指導を学級ごとに行い、生徒の心のケアに努めた。</p> <p>(2) 防災授業（慶應義塾大学 大木研究室） 災害発生時の判断・行動を考える。小学校低学年・高学年・中学校の3つに分けて発達段階に応じた授業を実施した。大地震の際の身を守る方法や、避難場所、避難経路等について、児童生徒の自己決定を大切にしながら、よりよい方法を考える授業を展開した。</p> <p>(3) 応急手当講習会 日本赤十字社に講師を依頼し、保健体育の授業として実施した。心肺蘇生法、AEDの使用法、応急手当の包帯法について、グループに分かれながら、生徒全員が体験しながら学習を行った。合わせて教職員も生徒とともに講習を受け、まわりの人の命を守るための学習を行った。</p> <p>(4) 小中合同避難訓練 朝の登校時に大地震が発生し、津波警報が発令されたとの想定で訓練を実施した。自分がいる場所から安全な高台に、児童生徒が自ら判断して避難行動を行った。 役場の危機管理室、消防関係者、スクールガードなど、関係者の協力をいただきながら、より臨場感をもって実施することができた。</p> <p>(5) 事前事後アンケート 防災週間の前後に、生徒のストレスについてのアンケートを行い、心のケアに関して効果のあった取り組みや、課題について検証し、次年度の改善に結び付ける取り組みを実施した。</p> <div data-bbox="1034 712 1428 981" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1034 1010 1428 1234" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1034 1263 1428 1653" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1034 1682 1428 2056" data-label="Image"> </div>		

【授業の展開】

防災授業

(1) 小学校低学年

- ・大地震の際に自分の身を守るダンゴムシの姿勢を学ぶ。
- ・大学生とともにダンスを通して身を守る姿勢を身につけさせる授業。

(2) 小学校高学年

- ・教室において大地震が発生した場合の危険性の把握と身を守る方法について学ぶ。
- ・教室の写真をもとに危険を予測し、それを避けるための行動を考える。
- ・実際に地震発生を想定し身を守る行動をとる。

(3) 中学生

- ・大地震の際の避難行動についてグループごとに考えよりよい方法を学ぶ。

①想定

ア 一人暮らしで津波警報発令、事前に考えておいた避難場所に行くと、火災が発生して行けない。そのときどうするか。

イ 津波警報が発令、家族とともに避難しようとしたが、家族は逃げなくてもいいのではないかと言い、なかなか避難しようとしな。あらかじめどうしておけばよいか。

②グループの話し合いの結果

ア 避難場所をいくつか考えておく必要がある。

イ どんな場合に避難し、どこに避難するのか、事前の家族の話し合いが重要。



生徒の感想

- ・私の家では以前、家族全員でもしもの場合の避難場所を確認していたけど、そこに行けなくなったらなどのことを考えていなかったの、改めて家族で話し合いたいと思う。
- ・自分も津波という考えてもいなかった災害を経験したので、この経験をどんどん伝えていかなければと思いました。また、万が一のことを考えて行動しなければならないと思いました。
- ・人の言ったことに惑わされずに逃げる必要があると思いました。あらかじめ避難ルートや避難場所を決めておくことが大事だと思いました。

まとめ

防災週間の取り組みにより、児童生徒及び教職員の防災意識を高めることができました。また、学校の防災体制を見直すことにもつなげることができた。

今回の取り組みのなかで心のケアを行い、危険回避の方法、事前の準備の大切さを学び、避難訓練で実践力を高めるという一連の学習の展開の流れを作ることができた。また、小中合同の避難訓練の際には、役場の危機管理室、消防関係者、スクールガードなど関係機関の方々にご協力をいただき、防災無線の活用や消防車の出動など、より臨場感のある訓練を実施することができた。

今後、改善点を検討し、よりよい取り組みをめざすとともに、小中の連携はもとより関係機関との連携をより深めながら、充実した復興教育となるよう取り組みを進めていきたい。



保護者・地域の感想

防災について小中学生が学ぶことは、とても大切なのでこの取り組みをぜひ続けてほしい。また、地域と一体となった活動に発展するとよいと思う。